

2016年7月3日

福音書からのメッセージ

平和の子がそこにいるなら、あなたがたの願う平和はその人にとどまる。もし、いなければ、その平和はあなたがたに戻ってくる。(ルカによる福音書 10 章 6 節)

イエス様は 72 人を遣わしました。この記事は他の福音書には書かれていません。ではこの 72 人とは誰のことでしょうか。

12 弟子が宣教した場面は他の福音書にも書かれていますし、またその 12 人の名前も残っています。またその弟子たちにはそれぞれ、伝説まで残っています。しかしこの 72 人のことは、名前はおろか、性別も職業も何も書かれてはいません。

この名もない人たちは、イエス様を信じ、従ってきた一人一人でした。イエス様の時代にいた人たちもその一人だったのでしょう。またこの 2000 年の間、福音を伝えてきた人たちのことも含まれていると思います。そして今ここにいる、わたしたち一人一人も、この派遣された 72 人であるのです。

聖公会は宣教をあまりしないと云われることがあります。日本聖公会の源流である英国教会が、植民地時代に宗教を強要したことに対する反省もあると思います。また宣教は神さまがするものであって、わたしたちはその業にただ参与するのみだという考えもあります。

確かに宗教を他人に対して押し付けるということは、よくないかもしれません。しかしだからと言って、目の前に神さまを必要としている人がいるのに、神さまの愛に飢えている人を知っているのに、何もしていないでいることが神さまのみ心になかったことなのでしょう。

しかしこのようなことを言うと、「では何を伝えればよいか」という方もおられる



かもしれません。ここでわたしの思いをお話したいと思います。

わたしがイエス様に出会ったと感じることができたのは、入院中に孤独を関していたときでした。そのときにふとイエス様を感じ、それからずっとイエス様が一緒にいてくださるという確信をもつことができました。

そしてその思いを伝えたいと強く感じたのです。わたしが一番伝えなかったことは、自分自身が体験したことでした。つまりイエス様がいつも一緒にいてくださるということです。泣いている人がいたらそばに行き、苦しんでいる人がいたら寄り添い、歩くことができなくなった人には手を差し伸べ、そして伝えたいのです。「大丈夫、イエス様がきっと一緒にいてくださるから」と。

72 人は喜んで帰ってきました。彼らは伝えずにはいられなかったのです。イエス様を通して示された神さまの愛を。イエス様が自分たちの元に来てくださったことを。喜びのうちに伝え、喜びのうちに帰ってきました。それが宣教なのです。

わたしたちがイエス様から頂いたものを独り占めするのですか。周りの人たちに喜びをもって伝えていくのです。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>